

さくらそう通信 NO 5

さくらそう友の会 6月

すっかり花がおわり 葉っぱのみのさくらそうとなりました。花後の手入れは来年の春の花のでき具合にかかります。寒さには強いが、暑さには弱いというさくらそうの性質なので、暑い夏をどうすごさせるか、日蔭に移す、寒冷紗を張るなどの対策をとりましょう。

また、**水やり**、雨量の多い月ですが急に晴れると気温がどんどん上がり、非常に乾きますので注意しましょう。

増し土 雨のため、鉢中の土が跳ね上がったり、大きな雨垂れ穴があいて、芽が露出する事があるので、発見したらすぐに増し土をおこないます。

施肥 薄い液肥を1回でも2回でも与えると、植物が強くなるそうです。(自分は全く花後はしなかったのですが今年は気合を入れてやっています。) 本には記されています。

除草 雑草は成長しますから怠らずに除草を行いましょう。

右の写真は「梅ヶ枝」です

毎年一番最後に咲いてくれます。美しい濃い紅色で爪白
(花弁の先が白くふちどりされている)

梅弁咲きで 受け咲き…この言い方は昔からの独特の言い表
わし方で各花弁の先が内側に内曲しているもの。受け咲きと
は花冠の向き方を表し、上向きに咲いているという意味。



野生のさくらそう 日本野山にはさくらそうの



仲間が沢山あり、それを求めて山登りをするのが私の
楽しみです。西丹沢の 檜洞丸 から 犬越路 の間の岩に咲い
ています。今年は5月14日に訪れて写真を一杯撮りました。「コイワザクラ」小岩桜です。赤ちゃんの手のような
葉っぱ 細かい毛が生えています。金時山にもあります。

庭にはさくらそうの仲間のクリン草、シコクカッコウ
草が咲きますが とにかく、さくらそう命なんです。